

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名 ※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名 ※	コミュニケーション論	単位数 ※	2単位
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金曜 1限
キャンパス※	小倉キャンパス	教室※	遠隔授業
学修分野	教養教育科目（基礎科目）		
授業目的 ※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し，高い道徳心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの基礎概念や理論を学び，理解する。 2. 教育や医療の専門職として，実際の対人場面でのコミュニケーションを理解する。 3. 学んだ知識やスキルを活用し，様々な状況における最適なコミュニケーションの取り方について考えることができる。 		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回 授業ガイダンス・コミュニケーションの概要(目標1) 第2回 言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション(目標1) 第3回 共感的傾聴(目標1,2,3) 第4回 アサーション(目標1,2,3) 第5回 感情のコントロールとコミュニケーション・スキル訓練(目標1) 第6回 説得的コミュニケーション(目標1,3) 第7回 対人援助とコミュニケーション(目標2,3) 第8回 子どもを相手としたコミュニケーション(目標2,3) 第9回 教育場面におけるコミュニケーション(目標2,3) 第10回 発達障害児へのコミュニケーション支援(目標2) 第11回 医療場面におけるコミュニケーション(目標2) 第12回 障害・困難を抱える人へのコミュニケーション(目標2) 第13回 対人援助チームにおけるコミュニケーション(目標3) 第14回 共感的なコミュニケーションのロールプレイ(目標3) 第15回 プレゼンテーション・ICTを活用したコミュニケーション(目標1,3)</p>		
評価方法 ※	<p>授業への参加態度と提出物の提出の有無と内容，期末試験の結果などから総合的に評価する。</p> <p>授業の参加態度と提出物の記入内容 30%，期末試験 70%</p>		

評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの基礎概念や理論を理解し，説明できること。 2. 教育や医療の専門職として，実際の対人場面でのコミュニケーションを理解し，説明できること。 3. 様々な状況における最適なコミュニケーションの取り方を自分なりに工夫できること。
テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
注意事項	Googleクラスルームを用いて遠隔授業（オンデマンド授業）を行う。
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉敬愛短期大学	学部・学科名 ※	現代子ども学科
科目名 ※	教育原理	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金・1
キャンパス※	佐倉キャンパス	教室※	多目的
学修分野			
授業目的 ※	本講義では、幼児教育や保育のあり方について考察する上での基礎となる教育の本質、教育目的、教育思想など教育の理念について学習し、幼児教育や保育の現場に立つにあたって必要となる幼児教育施設への理解、教育観、子どもの発達観について講義を行い、基礎的な幼児教育の習得をめざす。		
到達目標	教育に関するさまざまなテーマを取り上げ多様な側面からアプローチし、幼児教育(保育)に関する理解を深め、深い子ども理解(保育に関する知識)と使命感(社会的責任)を備えた教育者・保育者の育成(課題解決力)をめざす。		
授業内容 授業形態 ※	“子ども”の発達の連続性及び教育と保育の関連性を重視し、総合的な子ども理解のできる教育者・保育者を育成をめざすため、前半では、幼児教育のあり方の基礎となる内容－教育の本質、幼児教育の目的、幼児期の発達、教育思想などについて学習し、後半では、前半の内容をふまえ、今日の幼児教育のあり方についてより具体的に理解できるように、幼児教育の内容や方法を取り上げていきたい。 講義形式と事例検討が中心となるので、主体的・意欲的な受講態度を求める。またともに学びあうことが可能になるような、主体的な学びとなるようにしたい。		
評価方法 ※	毎授業課すレポート、提出物(80%)、授業態度(20%)をそれぞれ得点化し、総合的に判断する。		
評価基準			
テキスト	高野良子・武内清編著『教育の基礎と展開』(学文社)		
注意事項			
授業シラバス	https://kcn.u-keiai.ac.jp/up/faces/up/km/Kms00801A.jsp		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経営学科
科目名 ※	原価計算論Ⅱ	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金-1
キャンパス※		教室※	208
学修分野			
授業目的 ※	<p>「原価計算論Ⅰ」で学んだことを前提に、原価計算の3つの計算段階の最終段階である製品別計算（個別原価計算、総合原価計算）について学習する。</p> <p>さらに、経営管理のための計算技法である、標準原価計算、直接原価計算および意思決定のための原価計算について学習する。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【経営学に関する専門知識や技能、学修目標1】に資する科目である。</p>		
到達目標	<p>①個別原価計算について理解することを目標とする。</p> <p>②総合原価計算について理解することを目標とする。</p> <p>③経営管理のための技法（標準原価計算、直接原価計算および意思決定のための原価計算）の基礎的な計算について理解することを目標とする。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回 個別原価計算①－単純個別原価計算－</p> <p>第2回 個別原価計算②－部門別個別原価計算－</p> <p>第3回 総合原価計算①－単純総合原価計算－</p> <p>第4回 総合原価計算②－組別総合原価計算－</p> <p>第5回 総合原価計算③－等級別総合原価計算－</p> <p>第6回 総合原価計算④－工程別総合原価計算－</p> <p>第7回 総合原価計算⑤－仕損・減損の処理－</p> <p>第8回 中間テスト、管理のための原価計算</p> <p>第9回 標準原価計算①－意義、計算手続き－</p> <p>第10回 標準原価計算②－直接費の差異分析－</p> <p>第11回 標準原価計算③－間接費の差異分析－</p> <p>第12回 直接原価計算①－損益分岐点分析の基礎－</p> <p>第13回 直接原価計算②－CVPの感度分析－</p> <p>第14回 直接原価計算③－直接原価計算と全部原価計算の利益の相違</p> <p>第15回 意思決定のための原価計算</p>		
評価方法 ※	<p>期末試験70%、平常点30%（中間テスト、課題の提出状況）で評価する。</p> <p>中間テストは採点後に返却し、解説を行うことにより、受講者の理解を深める。</p>		

評価基準	
テキスト	建部宏明・山浦裕幸・長屋信義『基本原価計算（第五版）』同文館
注意事項	「原価計算論Ⅰ」を履修していることが望ましい。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	コミュニティ政策
科目名 ※	地域福祉論	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度 後学期	曜日・時限 ※	金曜2限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	2-302
学修分野			
授業目的 ※	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域福祉が「コミュニティ政策」の課題のひとつであることを理解する ・ 医療や福祉のフィールドとして地域が政策的に注目されている理由を理解する ・ 地域福祉や地域包括ケアに関わる複数の専門職および公的機関と民間・地域住民のそれぞれの役割を理解する ・ 「地域」の多様な意味を批判的に理解する ・ 以上をとおして、受講生ひとり一人が自らの「コミュニティ政策」の視点を形成する 		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域福祉の目的、多様な担い手、公と私の役割を説明できる 2. 地域包括ケアという政策課題の背景、関連諸制度の基礎知識を理解でき、相互に関係づけることができる 3. 地域福祉が「コミュニティ政策」の課題のひとつであることを説明できる 4. 授業で紹介した具体的な地域の取り組み事例のポイントを言語化できる 5. 課題解決のための地域資源に関する幅広い視点をもつことができる <p>以上5点それぞれについて、他者に向けた言語化（小レポート作成）ができる</p>		

<p>授業内容 授業形態 ※</p>	<p>主に5つの内容を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアをめぐる関連諸制度の理解 ・地域福祉、地域包括ケアの目的や背景の理解 ・住民と専門職の連携（多職種連携含む）のありようの理解 ・現代の医療や福祉にまつわる諸課題（社会的排除、在宅等での看取り等）の理解 ・対人援助の臨床的視点 <p>なお、事前事後学習の一部として、週末に開催される地域での活動への参加を推奨することがある</p> <p>授業形態は新型コロナウイルス感染の状況に応じて変化する可能性があるため2つの授業形態別に記す。</p> <p>【対面授業】 基本的に講義形式で行うが、アクティブラーニングとして、必要に応じて意見を求める。DVDやビデオ等の映像資料を用いて現実の課題を理解し、そのうえで必要な政策や支援のあり方を考え小レポートの提出を求める。</p> <p>【遠隔授業】 panoptoでオンデマンド配信。授業資料および動画で授業内容のポイントを示し理解度をチェックするとともに、意見・疑問等を求める。それらを匿名化した上で、教員の見解とともに受講生全員で共有することで、双方向型授業（アクティブラーニング）とする。</p>
<p>評価方法 ※</p>	<p>ほぼ毎回の小レポート（100点）により総合的に評価する</p>
<p>評価基準</p>	<p>小レポート 100点</p>
<p>テキスト</p>	<p>特に指定しない。適宜、資料等を配布し、授業内で参考文献等を紹介する。</p>
<p>注意事項</p>	<p>とくになし</p>
<p>授業シラバス</p>	<p>「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。</p> <p>https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp</p>

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	総合福祉 コミュニティ政策
科目名 ※	公共政策論	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度 後学期	曜日・時限 ※	金曜2限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	15-201
学修分野			
授業目的 ※	本授業は、公共選択論の視点から現代の政策問題を検討し、権利と利益の適切な配分・バランスの調整を通じた、政策課題の解決方法を検討することができる力を身に付けることを目的とする。		
到達目標	公共選択論の基本的な考え方を理解し、現代の政策問題における「権利と利益のバランスとその調整問題」について、自分なりの意見を、論理的に、他者に説明することができる。		
授業内容 授業形態 ※	<p>本授業は、現代の政策課題について取り上げながら、「公共選択」の基本的な考え方を修得する。特に、複数の主体間によって生じる権利と利益の配分とバランス、その調整を通じた「説得」と「納得」の問題、さらには集合的意思決定の問題を検討する。具体的には、まず、「大きな政府」、「NIMBY」、「所得格差」の問題を取り上げながら、個人間や世代間の権利と利益のバランスについて検討する。次に「レントシーキング」のモデルを紹介し、「自由貿易」の問題について検討する。また、「選挙制度」、「社会的厚生関数」、「アローの不可能性定理」、「パレート主義とリベラリズム」の問題、「財政・マクロ経済と民主主義」の問題について検討する。</p> <p>授業形態は新型コロナウイルス感染の状況に応じて変化する可能性があるため2つの授業形態別に記す。</p> <p>【遠隔授業】 講義の冒頭で、授業の解説動画を視聴する。その後、授業内で出された課題に取り組み、提出する。なお、Slackを活用し、受講生間での意見交換やグループ討議などのアクティブラーニングの機会を設ける。また、教員との間での質疑応答は、Slackもしくはメールで行う。</p> <p>【対面授業】 講義では、まず冒頭の10分程度を使い、前回の講義を振り返る。次に、10分程度、学生相互で事前学習の成果を共有する。その後、該当回の講義内容を60分程度、解説する。残りの10分程度で、授業内容について学生相互で振り返りを行う。また場合によっては、時間配分を変更し、学生によるプレゼンテーションを行ったりする。レポートについては、ループリックを活用することで、自己の振り返りを行えるようにする。</p>		

評価方法 ※	事前事後学習の成果、レポートの成果、授業内で行う確認テストで総合評価する。
評価基準	事前事後学習の成果：20点、レポート：30点、確認テスト：50点 S:100～90点、A：89～80点、B：79～70点、C：69～60点、D：60点未満
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。
注意事項	①政策学概論、経済学概論、法律学概論の内容を復習しておくこと。 ②サービスラーニングセンターがコーディネートする活動、地域におけるボランティア活動、インターンシップ等の機会を活用し、フィールドワークに出掛け、授業内での学びで完結することなく、授業外で体験したこと、経験したことを組み合わせて学んでいただきたい。
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	総合福祉
科目名 ※	事業計画論	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度 後学期	曜日・時限 ※	金曜2限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	15-302
学修分野			
授業目的 ※	<p>本授業では、これまでに学んだきた「経営戦略」や「事業計画」に関する知識を再確認すると共に、</p> <p>自らが関心を持つ業界について学生同士が同じグループを作り、そのグループワークの中で、具体的な企業を選び出し、その企業に関する「経営戦略」や「事業計画」について研究する。その企業に関する情報収集やデータ分析、必要に応じての現場調査をする事は、大学で学んだ事が実社会ではどのように活用されているを理解する事に繋がる。又、自らが関心を持つ業界・企業に関する「特徴や強み・弱み」を理解する事は、将来進みたい道・職業を具体的に学べる機会にもなり、受講する学生の実践力の向上に繋がる事を目的としている。最終レポートでは、グループワークを通じて学んだ企業研究の手順や報告の仕方をを用いて、自分が就職したい特定の企業を選び出し、その企業についての情報収集や研究から、自分がこの企業に入社したならば、こんな会社になりたいとのプレゼンテーションが行えるように、一人一人に丁寧に指導して参ります。</p>		
到達目標	<p>①経営戦略や事業計画に関する基本的な知識と用語の意味を理解し、説明できる。</p> <p>②自らが関心を持つ業界に関するテーマ設定ができ、そのテーマに沿っての情報収集や現場調査を実践的に行え、分析結果をプレゼンテーションにまとめることができる。</p> <p>③プレゼンテーション作成や他の受講生との相互討論、講師からのコメントを通じて、問題点と課題が発見でき、グループメンバーとして、どの様に最終レポートに貢献できたかと具体的に言える。</p> <p>④更に、個人毎に関心のある企業を選び出し、その企業のSWOT分析やプロフィールをまとめ、自分がこの企業に入社したならば、こんな会社になりたいとのプレゼンテーションを最終レポートとし、この授業の最終目的としている。</p>		

授業内容	<p>本授業は、事業計画策定においてこれまでに学んできた「経営戦略」や「事業計画」に関する基本的な理論や知識を再確認する共に、実際の企業ではどのように活用しているかを具体的に学ぶ事で、</p> <p>事業計画の重要性を理解してもらう。その為に、講師が携わったグローバルな小売業、イオン、コストコ、カルフルの事例を基に、実際の企業ではどのように事業計画が現場の実務とリンクしているのかを具体的な事例を通じて分かり易く解説し、受講生の理解力を高める。</p> <p>この理解力をベースに、自らが関心を持つ業界が同じである学生同士でグループを編成し、そのグループ単位で具体的な企業を選び出し、その企業に関する「経営戦略」や「事業計画」を研究する。その企業に関する情報収集やデータ分析、必要に応じての現場調査をグループ単位で行い、プレゼンテーションとしてまとめ上げる実践型授業である。グループワーク発表の機会を設け、他のグループとの相互討論や講師からの実践的なアドバイスにより、各グループの問題点や課題を明確にする。個人別の最終レポートでは、グループワーク発表を通じて学んだ企業研究の手順や報告の仕方をを用いて、自分が就職したい特定の企業を選び出し、自らの力でまとめ上げられるような指導育成とフォローアップする授業内容である。</p> <p>更に、グループワークする上で、毎回役割分担（司会進行役、書記係、発表者）を代えながら、誰でも自分の意見を述べたり、聞いたり、まとめたり、人前で発表できる力を身に付けられるように、講師が丁寧に個別指導を行い、個人の実践力アップにも繋げていく授業内容である。</p>
授業形態 ※	<p>授業形態は新型コロナウイルス感染の状況に応じて変化する可能性があるため、2つの授業形態別に記す。</p> <p>【対面授業】</p> <p>これまでに学んだ「経営戦略」や「事業計画」に関する知識の再確認や、実際の企業でどのように活用されているかの事例研究では講義形式であるが、自らが関心を持つ「業界の事業計画」に関する調査・研究では、グループ単位によるフィールドワークとプレゼンテーションによる研究発表。</p> <p>他の受講生との相互討論や講師からの実践的なアドバイスを受けながら、最終レポートに完成させていく、アクティブ・ラーニングの手法を活用した授業形態でもある。</p> <p>【遠隔授業】</p> <p>配信授業動画等に関して学生の質問や意見を求める。それら意見及び教員の見解を受講生全員で共有することで、双方向型授業(アクティブラーニング)とする。</p>
評価方法 ※	<p>事前学習、授業を受ける姿勢と理解度の確認、事後学習、最終レポートにより総合的に評価する。</p>
評価基準	<p>グループワークでの活動40点（積極性、発言、課題への対応等） 授業内容の理解度・提出課題・最終レポート60点の計100点満点</p>
テキスト	<p>※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。</p>

注意事項	<p>(1) 予習・復習を欠かさない事。</p> <p>(2) 積極的な姿勢で受講する事と、リアクションペーパーを活用した理解度や質問力を養う。</p> <p>(3) 講義の内容は、毎回ノートにまとめ、配布する資料は、散逸しないように、ファイル化する。</p>
授業シラバス	<p>「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。</p> <p>https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp</p>

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名 ※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名 ※	倫理学入門	単位数 ※	2単位
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金曜 2限
キャンパス※	小倉キャンパス	教室※	講義室 1 5
学修分野	教養教育科目（基礎科目）		
授業目的 ※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し，高い道徳心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.善いことを判断するためのさまざまな基準について理解できる。 2.自分がどのような倫理的基準に従っているかを検討できる。 3.現代社会における倫理的問題とその背景を理解できる。 		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回 イン트로ダクション：現代社会の倫理的問題（目標1・2・3）</p> <p>第2回 倫理学とはどのような学問か：「善い」「悪い」とはどのようなことか（目標1）</p> <p>第3回 現代倫理の基本理論(1)：功利主義と社会契約論（目標1・2）</p> <p>第4回 現代倫理の基本理論(2)：義務論（目標1・2）</p> <p>第5回 現代倫理の基本理論(3)：徳倫理（目標1・2）</p> <p>第6回 倫理学の理論的展開(1)：自分の意見をまとめるために（目標2）</p> <p>第7回 犯罪行為と倫理：社会的逸脱と愚行権（目標1・2・3）</p> <p>第8回 生命と性の倫理的問題（目標1・2・3）</p> <p>第9回 現代倫理の問題ジェンダー(1):多様性と社会的受容、性の同一性と自己理解（目標3）</p> <p>第10回 現代倫理の問題ジェンダー(2):性役割の変化、ジェンダー問題の課題（目標3）</p> <p>第11回 倫理学の理論的展開(2)：自分の意見を伝えるために（目標2）</p> <p>第12回 現代倫理の問題障害とケアの倫理(1)（目標3）</p> <p>第13回 現代倫理の問題障害とケアの倫理(2)（目標3）</p> <p>第14回 倫理学の最前線道徳的判断と感情，生物学的視点（目標1・2・3）</p> <p>第15回 倫理的課題に対する議論の理解と自分の主張の整理（目標1・2・3）</p>		
	授業への参加、発言等：50%		

評価方法 ※	小レポート：50%
評価基準	<p>授業中の課題、ディスカッションでの発言、小レポートで、以下の目標への到達度で評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.善いことを判断するためのさまざまな基準について理解できる。 2.自分がどのような倫理的基準に従っているかを検討できる。 3.現代社会における倫理的問題とその背景を理解できる。 <p>さらに、予習・復習の取り組み（予習・復習シートの実施と提出）も評価対象とします。</p>
テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
注意事項	<p>問題をより身近なものとして考えるため、授業中に発言を求めたり、小問題の記述などの作業を行ってもらうことがあります。受講にあたって特別な知識は必要ありませんが、倫理的関心がないと参加は難しいかもしれません。履修に際しては自分自身と相談してください。</p> <p>アクティブ・ラーニング（ディスカッション）を行います。</p>
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名 ※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名 ※	音楽の世界	単位数 ※	2単位
開講学期 ※	後期	曜日・時限 ※	金曜 2限
キャンパス ※	小倉キャンパス	教室 ※	さくらホール
学修分野	教養教育科目（基礎科目）		
授業目的 ※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し、高い道徳心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽理論・音楽史等の理解を深め、音楽への興味が広がるようになる 2. 総合芸術としての音楽芸術に造詣を深め、音楽に独自の見解が持てるように、また、他者の意見も尊重できるようになる 3. 音楽に関する対話型コミュニケーション能力が身につくようになる 		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回 導入：西洋音楽史の大まかな概要をとらえ、それぞれの代表的な曲を聴き違いや特徴などについて話し合う。毎回必要に応じ、楽典の基礎、和声を取り入れていく。(目標1,3)</p> <p>第2回 世界史の中の音楽（毎回数曲の鑑賞も行う）音楽の役割（古代ギリシャ、中世の音楽）(目標1,3)</p> <p>第3回 ルネッサンス・バロックの音楽(目標1,3)</p> <p>第4回 キリスト教と音楽(目標1,3)</p> <p>第5回 古典派の音楽(目標1,3)</p> <p>第6回 ロマン派の音楽 1 (目標1,3)</p> <p>第7回 ロマン派の音楽 2 (目標1,3)</p> <p>第8回 ロマン派の音楽 3 (目標1,3)</p> <p>第9回 オペラの発展 総合芸術としてのオペラとバレエ音楽(目標1,3)</p> <p>第10回 ミュージカルの台頭 1 (目標1,3)</p> <p>第11回 ミュージカルの台頭 2 (目標1,3)</p> <p>第12回 近代・現代の音楽 リズムの変容(目標1,3)</p> <p>第13回 音楽療法の歴史 音楽と教育(目標1,2,3)</p> <p>第14回 世界音楽史の中の日本の音楽(目標1,2,3)</p> <p>第15回 学生による鑑賞曲・発表・討論(目標1,2,3)</p>		

評価方法 ※	目標到達度30% 発表内容30% 提出レポート40%
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々なジャンルの音楽に対して興味が広がること 2. 他の学生の発表曲に対して関心を持ち、発表に対する自らの見解を持てること 3. 音楽に関する対話型コミュニケーション能力が高まること
テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
注意事項	授業で鑑賞した楽曲及び学生の発表に関心を持ち、さらに多くのジャンルの音楽に興味関心ををひろげていきたい
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経済学科
科目名 ※	国際金融論Ⅱ	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金-2
キャンパス※		教室※	208
学修分野			
授業目的 ※	<p>国際金融とは国境を越えた資本（お金）の取引のことである。金融取引は、高度に国際化が進み資本が効率的に配分されるようになった一方、一国で起こった金融問題が世界中に波及するリスクを抱えるようになった。例えば2008年のリーマン・ブラザーズの破綻をきっかけに発生した世界金融危機や、その発端となったサブ・プライムローン住宅問題などである。国際金融論Ⅱではこのような問題を経済学的に分析するための知識を提供する。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に経済学に関する専門知識・思考力、学修目標Ⅰに資する科目である。</p>		
到達目標	<p>国際的な金融取引の現状と問題を理解すること、そして国際金融論の知識をもとに、問題の解決策を自分なりに考え、論じることができるようになることを目標とする。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回 総需要の決定要因（1）：内需 第2回 総需要の決定要因（2）：外需 第3回 経常収支の考察 第4回 財市場の短期均衡 第5回 貨幣需要 第6回 貨幣供給 第7回 貨幣市場の均衡 第8回 財市場と貨幣市場の同時均衡：閉鎖経済のケース 第9回 IS・LM分析：金融・財政政策の効果 第10回 マンデル＝フレミングモデル 第11回 変動相場制における金融財政政策の効果 第12回 固定相場制における金融財政政策の効果 第13回 通貨危機 第14回 債務危機 第15回 世界金融危機</p>		
評価方法 ※	<p>課題の取り組み20%、期末試験の成績80%。課題や試験のフィードバックはTeamsを使って行う。</p>		

評価基準	
テキスト	指定なし.
注意事項	授業は主に板書を使って行うので、国際金融論IIの専用ノートを用意すること。なお、本講義は国際金融論Iで学んだ知識を前提にして行うので、当該科目を履修していることが望ましい。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	コミュニティ政策
科目名 ※	スポーツマネジメント	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度 後学期	曜日・時限 ※	金曜3限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	15-202
学修分野			
授業目的 ※	本授業の目的は、スポーツの歴史を理解し、これからのスポーツの在り方について考察をすることで、スポーツマネジメントに関する知識や考え方を習得することである。		
到達目標	<p>①スポーツの本来的意義、スポーツの在り方について、自分自身の意見を持ち、論理的に、他者に説明することができる。</p> <p>②スポーツマネジメントに関する基本的な知識を理解しており、論理的に、他者に説明することができる。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>本講義では、スポーツが持っている問題点と良さを学生の皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。単純化されたスポーツ、勝つか負けるか、勝者が敗者かのメカニズムではなく、スポーツが持つ本来的意義やスポーツの在り方を問い直し、その文脈の中で、スポーツに関わるクラブやチーム、またはスポーツ活動そのものをどのようにマネジメントしていくべきか、という点について検討していきたいと思えます。</p> <p>その上で、講師が、これまで国内外のプロスポーツクラブに携わってきた経験をお伝えしたいと思います。</p> <p>授業形態は新型コロナウイルス感染の状況に応じて変化する可能性があるため、2つの授業形態別に記す。</p> <p>【遠隔授業】 講義の冒頭で、授業の解説動画を視聴する。その後、授業内で出された課題に取り組み、提出する。なお、ICTを活用して、受講生間での意見交換やグループ討議などのアクティブラーニングの機会を設ける。</p> <p>【対面授業】 講義では、まず学生相互で事前学習の成果を共有する。次に、該当回の講義内容を60分程度、解説する。残りの20分程度で、授業内容について学生相互で振り返りを行う。</p>		
評価方法 ※	事前事後学習の成果、レポートの成果、授業内で行う確認テストで総合評価する。		
評価基準	事前事後学習を含む毎回の課題の成果：30点、中間レポート：30点、最終レポート（もしくは確認テスト）：40点 S:100～90点、A：89～80点、B：79～70点、C：69～60点、D：60点未満		
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。		

注意事項	特になし
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉敬愛短期大学	学部・学科名 ※	現代子ども学科
科目名 ※	教育相談	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金・3
キャンパス※	佐倉キャンパス	教室※	2Cクラス教室
学修分野			
授業目的 ※	教育相談は、子どもたち全員を対象とし、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動であるという認識と、子どもに寄り添いともに成長しようとする使命感(社会的責任・生涯学習)を培う。		
到達目標	各年齢段階における心理発達の特徴を踏まえた総合的な子ども理解(保育に関する知識)を基礎として、乳幼児・児童及び保護者等に心理教育的援助を行う際に必要な技術(保育技術)を習得し、より良い(コミュニケーション・スキル)や(課題解決力)を身につける。【心理相談の実務経験を有す教員が、その経験を活かして、カウンセリングの手法や今日的な課題(不登校、発達障害等)への対応を指導する。】		
授業内容 授業形態 ※	基本的には講義形式が中心となるが、ロールプレイングやディスカッション、振り返りシートの記入を取り入れる。積極的な参加を望む。 理解を深めるため、VTR資料の視聴等を多く取り入れる。漫然と、板書のみを写したり、VTRを視聴したりするのではなく、自分なりのメモを取りながら内容を整理・理解するよう努めてほしい。		
評価方法 ※	毎回の講義内容についての小レポート・振り返りシート30点+定期試験70点=100点		
評価基準			
テキスト	金子智栄子編著「教育相談とカウンセリング」樹村房		
注意事項			
授業シラバス	https://kcn.u-keiai.ac.jp/up/faces/up/km/Kms00801A.jsp		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉敬愛短期大学	学部・学科名 ※	現代子ども学科
科目名 ※	文章表現法	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金・3
キャンパス※	佐倉キャンパス	教室※	311教室
学修分野			
授業目的 ※	すべての学力や生活の基礎となる言葉の力を身に付けることは、現在も将来にとっても非常に大切なことである。その言葉の力を確実にし、今後社会でより一層活躍できるようになるための言語活用力としての文章表現法を身に付けることを目指す。		
到達目標	本学のDPF「深い子ども理解と使命感を備えた保育者の育成」を達成するためのCP②「コミュニケーションや課題解決の能力を身に付けること」を到達目標とする。具体的には、言葉に関することや文章表現方法などの基本的な事柄を正確に理解し、さらにそれらを適切に活用しながら目的に応じた言語活動を通して学ぶ。		
授業内容 授業形態 ※	内容や課題によって、講義、演習、グループワークなどの多様な形態をとる。個人思考を深める学びとグループで協議、プレゼンテーションなどによる集団思考を深める学びを適宜実施し、主体的、実践的な双方向型の授業を行う。毎回の授業記録はポートフォリオを活用し整理する。		
評価方法 ※	授業参加態度、課題及びポートフォリオの作成等を総合的に判断する。		
評価基準			
テキスト	特に設けない。レジュメ及び資料を配付する。サブテキストとして『最新 国語表記ハンドブック』（大修館書店）を使用する。		
注意事項			
授業シラバス	https://kcn.u-keiai.ac.jp/up/faces/up/km/Kms00801A.jsp		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	東京情報大学	学部・学科名 ※	総合情報学部・総合情報学科
科目名 ※	視覚デザイン論	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度後期	曜日・時限 ※	金曜3限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	201
学修分野			
授業目的 ※	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を視覚に訴える形で表現し伝える視覚デザインの変遷と理論を学び、現代社会におけるビジュアルコミュニケーションの技術と効果を理解する。 ・現代のメディア業界や広告業界における視覚的情報伝達のアプローチを分析する。 		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚デザインの理論に基づくコミュニケーションの効果を理解しメッセージを読み解くことができる。(知識・理解) ・レポートやプレゼンテーション、ゲーム制作等に視覚デザインの理論と表現を活かした表現を行うことができる。(汎用的技能) (総合的な学習経験と創造的思考力) ・視覚デザインに関する知的財産権と関連法について学び、情報の表現者としての自覚と高い倫理観を身につける(態度・志向性) 		
授業内容 授業形態 ※	<p>01.ガイダンス 視覚デザイン論の概要 02.デザインの歴史1 デザインの原点・文様 03.デジタルデザイン1 Inkscape 1 04.デザインの歴史2 布・絹・民藝 05.デザインの歴史3 印刷・広告 06.デザインの歴史4 アールヌーボー 07.デザインの歴史5 ロシア・アバンギャルド 08.デジタルデザイン2 Inkscape 2 09.デザインの歴史6 バウハウスとスイス・スタイル 10.デジタルデザイン3 ロゴ&グラフィック 11.デザインの歴史7 アールデコ 12.デザインの歴史7 アメリカ・デザイン 13.デザインの歴史8 コンピュータ革命 14.デザインの歴史9 ユニバーサル・デザインとピクトグラム 15.現代日本のデザイン</p> <p>1回目と15回目は対面授業。その他の回はハイフレックス授業(対面、オンライン授業、いずれかを学生が毎回の授業で自由に選べる)を予定。</p>		
評価方法 ※	<p>課題 ①デジタル画像処理②グラフィック・デザイン制作③WEBサイトの企画・デザイン制作 レポート 視覚デザイン分野のテーマを設定し、資料に基づいた調査・考察を行う。 小テスト WebClassによる授業内容に関する重要項目復習テストを複数回行う。</p>		

評価基準	課題（40％）、レポート（40％）、小テスト（20％）
テキスト	指定しない。毎回の授業の資料はWebClassに掲示する。
注意事項	
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006 ※開講年度学期（2022後期）、授業科目「視覚デザイン論」で検索

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名 ※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名 ※	行動科学入門	単位数 ※	2単位
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金曜 4限
キャンパス※	小倉キャンパス	教室※	講義室 2 1
学修分野	教養教育科目（基礎科目）		
授業目的 ※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し、高い道徳心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<p>1. 行動のしくみ、認知、対人・社会、健康という各テーマにおける行動の基礎的知識を説明できる</p> <p>2. 行動に関わる意思決定過程や行動の生起・変容に関わる理論やメカニズムについて理解し説明できる</p> <p>3. 日常生活や社会的出来事に見られる様々な行動について、行動科学の視点から議論できる善いことを判断するためのさまざまな基準について理解できる。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回 ガイダンス（行動科学と研究手法）（目標1）</p> <p>第2回 行動のしくみ（1）；行動の生物科学的入門(目標1,2)</p> <p>第3回 行動のしくみ（2）；行動の動機づけと学習(目標1,2)</p> <p>第4回 行動のしくみ（3）；進化心理学(子育ての視点から)(目標1,2,3)</p> <p>第5回 認知（1）；社会的情報処理と適応（対人行動と認知過程）（目標1,2,3）</p> <p>第6回 認知（2）；マンガの認知科学（マンガの読みと理解の認知過程）（目標1,2,3）</p> <p>第7回 認知（3）；行動の自己制御(実行機能と非認知能力)(目標1,2)</p> <p>第8回 対人・社会（1）；対人関係(印象形成と対人魅力)(目標1,2,3)</p> <p>第9回 対人・社会（2）；対人行動(同調と内集団ひいき、リーダーシップ)(目標1,2,3)</p> <p>第10回 対人・社会（3）；集団と組織(集団の凝集性と組織規範)(目標1,2,3)</p> <p>第11回 健康（1）；感情のコントロールと精神的健康(目標2,3)</p> <p>第12回 健康（2）；精神疾患と行動上の問題(目標2,3)</p> <p>第13回 健康（3）；行動科学的アプローチによる治療(目標2,3)</p> <p>第14回 健康（4）；精神的健康増進に役立つ行動変容(目標1,2,3)</p> <p>第15回 まとめ；レポート課題のフィードバック(目標1,2,3)</p>		

評価方法 ※	毎回の授業の提出物や参加態度（30%）、レポート課題（70%） レポート課題は、各担当教員ごとに課すものとする（第4回、第7回、第10回、第14回に課す予定）。
評価基準	1. 授業で取り上げた、各テーマにおける行動の基礎的知識を説明できることを合格基準とする 2. 授業で取り上げた、行動に関わる意思決定過程や行動の生起・変容に関わる理論やメカニズムについて説明できることを合格基準とする 3. 授業で得た知識を基に、日常生活や社会的出来事に見られる様々な行動について、行動科学の視点から自分の意見を述べられることを合格基準とする
テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
注意事項	各授業時のグループワークなどには積極的に参加すること。
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	東京情報大学	学部・学科名 ※	総合情報学部・総合情報学科
科目名 ※	心理学概論	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度後期	曜日・時限 ※	金曜 5 限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	101
学修分野			
授業目的 ※	人の心について知ることは、社会の中でより良く生きていくために重要な要素である。本講義では心理学の様々な領域について、それぞれどのような内容を対象としているかについて説明する。心について幅広い知識を得ることで、生活の様々な側面に心理学的な知見が生きていることを知り、心理学的な見方を持つための基礎を身につける。		
到達目標	心理学に関連する様々な領域で取り扱っている内容の基礎を知り、人の心について発展的な考えや興味を持つことができる（知識・理解）。心理学に関する情報を適切に収集、分析及び活用することができる（汎用的技能）。		
授業内容 授業形態 ※	<p>1.心理学とは何か 心理学の成り立ちや、さまざまな学問領域の中における位置づけについて理解する。</p> <p>2.脳と心理学 脳機能と心の関係について学ぶ</p> <p>3.感覚・知覚 感覚や知覚の意味と仕組みについて学ぶ</p> <p>4.記憶 記憶の仕組みについて学ぶ</p> <p>5.学習 学習に関する心理学について学ぶ</p> <p>6.思考・問題解決 思考や問題解決に関する心の働きについて学ぶ</p> <p>7.感情 感情の仕組みについて学ぶ</p> <p>8.動機づけ 動機づけの仕組みについて学ぶ</p> <p>9.性格 性格の心理的構造や測定法について学ぶ</p> <p>10.知能 知能の心理的構造や測定法について学ぶ</p> <p>11.発達 人が成長していく中での心の機能の変化について学ぶ</p> <p>12.ストレスと健康 心と身体の関係について学ぶ</p> <p>13.臨床心理学 心の働きの異常や心理療法について学ぶ</p> <p>14.社会心理学 人と人との関わりに関する心理学について学ぶ</p> <p>15.まとめ及び試験 本講義の総括をし、心理学に関する情報を適切に収集、分析及び活用することができるようになったか確認をする。確認のための試験を行う。</p> <p>対面</p>		
評価方法 ※	2回行われる平常試験の合計点 平常点（コメント、挙手、質問、提出物、授業態度）		

評価基準	平常試験（80％）、平常点（20％）
テキスト	必要に応じて資料を配布します。
注意事項	<p>1.受講希望者は初回の講義に必ず出席してください。</p> <p>2.毎回の講義内容について復習しましょう。小テストで学習内容を確認する場合があります。</p> <p>3.質問は、講義中、講義後に応じますので、積極的に質問してください。</p>
授業シラバス	<p>シラバス検索ページ</p> <p>https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006</p> <p>※開講年度学期（2022後期）、授業科目「心理学概論」で検索</p>

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	東京情報大学	学部・学科名 ※	総合情報学部・総合情報学科
科目名 ※	ゲーム制作基礎	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度後期	曜日・時限 ※	金曜5限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	201
学修分野			
授業目的 ※	<p>コンピュータ・ゲームの制作にはプログラミング技術の取得が必要であるが、ゲーム制作に特化した開発ツールを利用することによって、プログラミング技術を習得していない者でもゲームの内部処理を学び、自分のアイデアを表現することができる。本授業は、まずゲーム制作を体験してみることで、企画立案、デザイン設計、システム開発、さらにアルゴリズムや物理シミュレーションの活用等に触れ、受講生のその先の学習・研究の方向性を見極める一つの助けとなることを目的とする。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構想したゲームを実際に制作することによって、情報技術の基礎を習得する。(汎用的技能) ・ 過去の代表的なゲームによって表現された、「競争」や「戦略」「解決」のモデル化技術を具体例から学ぶ。(汎用的技能) ・ ゲーム制作における乱数と変数の利用、データや物理シミュレーションの活用から数学・物理学的アプローチを理解し身につける。(汎用的技能) 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の目的、内容の説明 2. ゲーム制作演習の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ ゲーム制作のプロセス ・ ツールの基本操作 3. ゲームの構成要素 <ul style="list-style-type: none"> ・ ゲームを構成する材料 ・ イベントとアクション 4. 代表的なゲームの分析 <ul style="list-style-type: none"> ・ レトロゲームの歴史 ・ シューティングゲーム ・ プラットホームゲーム ・ 格闘ゲーム 5. 数値の計測と制御 <ul style="list-style-type: none"> ・ 得点の仕組みと制御 ・ スコア、ライフ、ヒットポイント等の制御 ・ 数値の表示法 		

<p>授業形態 ※</p>	<p>6. 空間の設計と制御</p> <ul style="list-style-type: none"> ・RPGの構成要素 ・画面レイアウトの設計 ・マップ、アイテム、障害物 <p>7. 時間の制御</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実時間の計測とフィードバック ・制限時間とルール <p>8. ゲーム制作①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレイヤー・キャラクターの制御 ・コンピューター・キャラクターの制御 ・条件判定キャラクターの制御 <p>9. 物理シミュレーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重力のシミュレーション ・加減速のシミュレーション ・衝突、摩擦、慣性のシミュレーション <p>10. ゲームAIの基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自律制御による移動と攻撃 ・手加減の表現 <p>11. ゲーム制作②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの企画 ・システム設計 <p>12. ゲーム制作③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム・グラフィックの制作 ・実装とデバッグ <p>13・14.ゲーム制作④ ⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業の分担と統合 <p>15. まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題作品の講評 ・授業のまとめ <p>1回目と15回目は対面授業。その他の回はハイフレックス授業（対面、オンライン授業、いずれかを学生が毎回の授業で自由に選べる）を予定。</p>
<p>評価方法 ※</p>	<p>課題 4回の基礎課題、1回の総合課題を課す。基礎課題では学習効果の測定、総合課題では総合的にこの授業の学習の到達度を判定する。</p> <p>レポート 講義内容に関連するテーマで調査と分析を行い、自分の考察を加えたレポートを作成。詳細は講義内で通知する。</p>
<p>評価基準</p>	<p>課題（80%）、レポート（20%）</p>
<p>テキスト</p>	<p>指定しない。毎回の授業の資料はWebClassに掲示する。</p>

注意事項	授業および予習復習、課題制作を行うため各自のPCへ「Clickteam fusion 2.5 free edition」のインストールが必須となる。 ゲーム制作に関する総合的な講義を行うが、特定のプログラミング言語に関する演習はない。
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006 ※開講年度学期（2022後期）、授業科目「ゲーム制作基礎」で検索

※は必須記入事項